

LAB REPORT

新潟大学大学院医歯学総合病院皮膚科助教 / 総括医長

新潟大学大学院医歯学総合研究科皮膚科学教授

藤本 篤 *Fujimoto Atsushi*

阿部理一郎 *Abe Riichiro*

これまでの固定観念に縛られない
ユニークな研究を世界に発信していく

新潟大学大学院医歯学総合研究科皮膚科学

新潟大学皮膚科は、1916年に高橋明教授の開講した皮膚泌尿器科学教室を前身として1949年に独立しました。昨年2016年2月に開講100周年を迎えましたが、その間、橋本喬教授の第四性病、ハンセン病や皮膚結核の研究、田中宏教授の脂漏・脂腺の研究、佐藤良夫教授の毛嚢脂腺系の研究、伊藤雅章教授の毛髪の電子顕微鏡と細胞生物学的研究へと引き継がれ、2015年9月に、阿部理一郎教授が第6代教授として着任しました。

新潟大学皮膚科は、以下に記載しますように、実臨床に密接に関連した研究テーマに対する取り組みを行っています。今後はこれまでの固定観念に縛られないユニークな研究を世界に発信していくことを目標としています。

重症薬疹の発症機序解明および疾患特異的治療法の開発および細菌アレルギーの解明

重症薬疹(Stevens-Johnson症候群; SJS, 中毒性表皮壊死症; TEN)はと

きに致死的な経過をたどる疾患ですが、発症機序についてはいまだ十分に解明されていません。本研究グループは阿部教授のもとで、発症予測マーカーおよび重症度予測マーカーの同定、また重症薬疹での表皮細胞死にかかわる受容体をターゲットにした重症薬疹治療薬の検索を行っています。現在、さらなるマーカー検索を演助教が行っています。

一方、細菌に対するアレルギー反応でも、薬疹様の皮疹を生じる機序についても検討を行い、その発症機序の一端を明らかにしました。さらに、腸内細菌叢や皮膚細菌叢にも検討範囲を広げています。

遺伝性毛髪疾患の原因遺伝子の同定と機能解析

毛包は、退行期・休止期・成長期からなるダイナミックな毛周期を一生涯にわたってくり返す、自己再生能をもつ魅力的な器官です。近年の分子生物学の進歩により、皮膚および皮膚付属器の発生や分化に関与している多数の